

令和3年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 3年 8月 20日作成

大学名：新潟県立大学

タイトル：その1000円で何を買う？ ～欲しいものが手に入らない子供たち～

1：本ワークショップの要旨

「世界の不平等」に焦点をあて、貧困の定義や形成要因、連鎖性などを紹介し、今日行われている貧困への各国の貧困対策事業や企業、自治体、新潟県の取り組みの効果とその問題点にもフォーカスをあてる。また、各人のちょっとした小さな行動であっても、貧困を形成しうることを説明する一方で、各人の行動次第では貧困をなくすことができる可能性があることも主張する。世界の貧困を受け止め、そのうえで、各人に何ができるかを考えることにより、学習者一人ひとりが貧困に対して問題意識をもつことを目標にする。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

このワークショップの内容の目的は、学習者が貧困に対してもつ「他人事意識」「非当事者意識」をなくし、世界の貧困問題について真摯に受け止め、自分と世界の貧困が繋がっていることを認識させることである。また、技術的な目標として、ワークショップやグループワークでは英語を積極的に用いることによって、国際的な問題について、学習者自身の持つ英語のスキルを用いて、自身の意見を表現できるようにする。(技術的な目標に際しては、各学校と相談したうえで各学習者の年齢を十分に配慮する。)

3：本トピックをとりあげる理由

日本は相対的に豊かな国であるため、身近に発展途上国が直面するような貧困を感じる機会は極めて限られている。そのため、今現在、発展途上国が直面しているような貧困とは無縁に感じてしまうかもしれないが、それは大きな間違いである。貧困の性質上、遠く離れた私たちの行動であっても、貧困の形成に無意識的に関与してしまっており、それは一方で、各人が行動を見直せば、貧困をなくすことができるかもしれないということである。貧困問題をトピックとして扱うことにより、各人が品子人限らず、国際的な諸問題に対する無関心をなくすきっかけになるのではないかと考え、とりあげた。

4：活動過程 (使用時間：90分 参加人数：30人程度想定)

ワークショップ全体を各4パート(導入・展開・発展・まとめ)に分けて展開する。

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入：起 (15分)	実際に生徒に1,000円分の買い物をしてもらう。そのあとに時間の余裕があればいくつかのグループに発表してもらう。	生徒が買いそうな物の選択肢(お菓子、漫画、食べ物、化粧品、映画のチケット、など)を用意して実際に買い物をしてもらう。その中に恵まれた環境で育った生徒ではおそらく買わないだろうが発展途上国の子供は欲しがる物(ポロイ古着、水道水、中古の文房具など)を混ぜておく。	実際に生徒自身たちが嗜好品を選んだ後に恵まれない子供たちの買う物を目の当たりにすることで、自分たちの生活がどれほど恵まれているか、発展途上国の子供たちはどれほど大変な生活をしているのか考えることができる。	お菓子、漫画、食べ物、化粧品、映画のチケット、ポロイ古着、水道水、中古の文房具(実際に本物を用意せずとも選択肢のカードだけでも良い)	世界には千円を使って不要にも思える物を買う子供がいることやそういった社会があること驚く、自分たちの環境を振り返る、など。オンラインで開催する場合こちら側がなにもしない待機の時間が生まれてしまうため、私たち学生と生徒同士のアイスブレイクになるためには相互的なコミュニケーションの時間を多くした方がよいかもしれない。

展開：承 (30分)	① 概念	<p>貧困の定義を用いて、貧困を分かりやすく説明する。</p> <p>北朝鮮と中国を比較して、貧困のレベルによって違いがあることを伝える。</p>	<p>貧困とは何かを知ってもらう。</p> <p>貧困が決して遠い国の問題ではないことを伝える。</p>	<p>PC、プロジェクター、筆記用具、紙 or ホワイトボード</p>	<p>説明部分にクイズを織り交ぜて進行することで生徒が飽きないようにする。</p> <p>考えたり、答えたりするのが難しい場合にはファシリテーターがヒントを出す。</p>
	② 貧困要因	<p>貧困の連鎖の例を紹介し、貧困のサイクルを説明する。</p> <p>アフリカにおける貧困の状況から、貧困を形成している要因との関わりを見る。</p>	<p>貧困＝お金というイメージを払拭する。</p> <p>貧困には様々な形態や要因があることを理解する。</p>		
	③ 身近な例	<p>水資源、スマートフォン、エコバッグ、フェアトレードの事例を通して、どういった行動が貧困に加担 or 貧困の緩和につながるか考える。</p>	<p>私たちの行動が他国の貧困に影響を与えている可能性があることを伝える。</p>		

<p>発展：転 (20分)</p>	<p>SDGs の内容とその具体例について説明する。また、アクティビティでは、この活動で学んだことをどのように自分たちの生活に取り込むかをグループワークで議論する。</p>	<p>MDGs と SDGs の違いを説明した後、実際に社会で SDGs がどのように活用されているかを学ぶ (Nestle、長岡市立中之島中央小学校の例を使用します)。また、この例がそれぞれ SDGs のどの目標に当てはまるのかを伝えることで、具体的にこれがどのように世の中に貢献するのかまで理解してもらう。デメリットも併せて説明して、貧困の解決にアプローチする方法はこれだけではないということも伝える。アクティビティでは、今まで学んだ知識を活かす。レベルに合わせて、内容を二通り用意しておく。</p> <p>① あらかじめ用意した回答の中から、自らが実践できそうなことを選ん</p>	<p>有名な企業と新潟県内の事例を提示することで、取り組みを身近に感じてもらう。自らも貧困解決の一員になれるということを、自発的に理解させる。</p>	<p>ペン (対面のみ) …アクティビティで、グループの意見を書く際に使用します。</p>	<p>グループワークでは、新型コロナウイルスの感染対策に留意する。</p>
-----------------------	--	---	---	---	---------------------------------------

		<p>で、理由を発表してもらおう。(フェアトレード商品を買う・グリーンカーテンを導入する・この活動を周りに教えたり、別な講義にも参加したりする・自由意見)</p> <p>② 何に取り組むかを自分たちで考え、それを発表してもらおう。</p>			
<p>まとめ : 結 (5分)</p>	<p>ワークショップ全体の内容と意義の再確認。</p>	<p>『発展パート』にて案出された意見を共有したうえで、各人の行動が貧困と間接的につながっていることを再確認する。</p> <p>各パートごとにおける重要なポイントを再度、紹介する。</p>	<p>ワークショップ全体の整理と再確認し、ワークショップで学んだことをより身に付くよう促す。</p>	<p>特になし</p>	<p>ワークショップで紹介されたフェアトレード商品やSDGs 企業を絶対視させないように配慮しながら、世界の不平等についてふれる。</p>

5：新型コロナウイルス感染症拡大防止のための工夫や留意点

オンライン形式、対面形式双方の形式でワークショップを開催できるよう計画しております。対面形式におけるグループワークでは密にならないよう配慮したうえで開催しますが、新型コロナウイルスの感染状況次第では、各学校と相談したうえで、一部内容を変更する可能性があります。

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

スライドを使用したワークショップを想定しているため、画面を共有できるテレビやスクリーンを使用したいと思います。また、ワークショップでは5人程度の班ごとに分かれたグループワークを想定している箇所がございます。

7：使用する教材

スライド ハンドアウトなど（※）

8：参考にした資料

未定（※）

9：その他

7. 8の（※）について

各学校におけるニーズに沿ってワークショップの内容を作成していきたいと思います。そのため、使用する教材や参考資料等は各学校の担当者と相談したのちに決めていく方針です。